

▲▽海の道▲▽ ⑤ 徳島といえば阿波踊り

400 年以上の歴史を持つといわれる阿波踊り②

起源については諸説あり、広く知られているのが、1585 年に蜂須賀家政によって徳島城が落成した際、祝賀行事の無礼講として城下の人々が踊ったとする「築城起源説」。また、鎌倉時代の踊り念仏が盆踊りとして伝わり、さまざまな形で変化した「盆踊り説」もある。真実是不明だが、江戸時代には徳島城下の盆踊りとして存在していた

-明治時代中期-

輸入染料に押されて藍産業が衰退する。盆踊りのメインスポンサーであった藍商人の経済力が沈下し、「俄踊り」が衰退した。その一方で「ぞめき踊り」がお囃子とともに町に繰り出す行進型に変化する。これが、現在の阿波踊りの直接的なルーツである。明治時代までの盆踊りは「見ること」「見られること」より「参加すること」が主体だった。

-大正時代～昭和時代-

少しずつ観光化が進み、参加者が「見られる踊り」を意識するようになった。現在の「阿波踊り」という名称が使われるようになったのは昭和に入ってからで、この名称も観光資源として全国に広まるきっかけとなった。昭和 12(1937)年～昭和 20(1945)年は戦争のため中断を余儀なくされたが、終戦後の昭和 21(1946)年に復活した。

-現在に続く-

連(踊り子グループ)が続々と結成される。

江戸時代後期に描かれた「徳島孟蘭盆組踊之図」に見られる「評判所」は、昭和 22(1947)年に優れた「連」を審査して表彰する場となった。審判側度は数年で廃止されたが、評判所は名前を変えながらその後も継続。現在は演舞場(観覧席)として設置されている。

阿波踊りは現在、市内 6 カ所に設けられた演舞場で、「連」が踊りながら通過するのを鑑賞するのがメインとなっている。歩行者天国になった路上では少人数の輪踊りがゲリラ的に披露され、踊りを披露するステージも各所に設けられる。

徳島県内には企業・学校・各種団体・地域など、さまざまな構成メンバーが集まる「連」が複数存在する。特に「阿波おどり振興協会」や「徳島県阿波踊り協会」などに加盟する 33 連は「有名連」と呼ばれ、阿波踊りの花形となっている。